

学んで 話して 楽しい にほんご教室

「夢気球だより」編集部 発行

〒610-0121

城陽市寺田西ノ口7-4西邦ビル2階 城陽市国際交流協会内

電話 0774-57-0713

編集者 <西山雅文> niciyama0323@gaia.eonet.ne.jp



第6回夢気球総会

開催される

4月23日(土) 15名の参加者にて午後1時30分から城陽市国際交流協会にて定刻に始まりました。運営委員会からの報告が承認された後、休憩をはさんで活発な話し合いとなり午後4時過ぎに終了しました。



総会は例年とおり『運営委員会で議論してまとめた内容説明』と『参加者間での交流』の2部構成で行われました。司会進行を片岡さんにお願ひし、代表の杉島さんから『新役員紹介や運営委員会からの案内・日本語教室の現状等』が、渋谷さんと峯松さんから『日本語教室以外の活動報告と今年度の予定・会計及び会計監査結果の報告』がなされ、満場一致で承認されました。尚、総会出欠の連絡を戴いた方には資料を送付済ですが、連絡を失念された方で総

ンドリーに ③学習者・支援者は対等な立場で一人間同士のお付き合いを ④ほとんど日本語が話せない学習者への対応は? ⑤気軽に経験者に相談する事も大事 ⑥コミュニケーションを重視し、出身国の文化等も共に学ぶ姿勢が大事では ⑦授業時間は90分と120分で実施されている様です。配分や時間については、各クラスの状況で決定されています ⑧お互いに感謝の気持ちを持ってクラス運営をしている ⑨長続きするのは、お互いが楽しい ⑩雰囲気を作るのが肝要 ⑪支援を通じて、他の支援者や学習者とのつながりが広がった感がある ⑫日本語の奥深さを感じている ⑬日本語だけでなく文化や歴史等も見直す機会となっている ⑭メンバー登録をされ、5月から養成講座を受講予定の方が2名おられたが、講座修了後の支援に対する期待感や不安等についても ⑮上記の他にも多様な疑問点がありますが『確実にこれが回答だと思われぬものがない』のが、現実だと思えます。今後に予定されている『スキルアップ研修』等も利用しながら、メンバー相互の話合い等とおし

チーズケーキとコーヒータウン等が供され、和やかな雰囲気の中で、切切なく参加者の発

2016年度 (5月14日から7月16日まで 全10回) 日本語支援ボランティア養成講座始まる



5月14日から、10週間にわたっての日本語支援ボランティア養成講座が始まっています。開講は2年振りですが、34名の受講希望者がありました。初日は、イントロダクションとして、京都府国際センターから「京都府の外国人住民と日本語教育の現状」

言が続きまして。お陰にも多数の方々の参加をお待ちしています。(広報 村上 弘芳) 続いて、「城陽で活動している夢気球」について杉島代表から紹介がありました。初日のメインは、「(財)海外産業人材育成協会に所属されている澤田幸子講師で「地域日本語教室と日本語支援ボランティアの役割」と題して、日本語支援教室の事例紹介、日本語支援ボランティアの役割、日本語指導時の基本的な心得などについてユ一モアも交え、実例も多く出されてわかりやすく話をされました。約2時間の長丁場でしたが、内容が充実しており受講生の方も楽しんで聴講しておられた様でした。 2回目からは、京都にほんごRingsによる日本語の文型、動詞、形容詞の活用形など文法を中心とした講義に入っています。指導される先生方も、日本語を習う外国人役になり、グループ毎に模擬講義の演習などを行って実際の教室での教え方などの実践的な内容を勉強して

夢気球の支援から卒業し、帰国された イムマン・ヘンさんと奥さんの感想文です。

『日本で勉強になった事』

自然が大好きな私達み袋をもらって、河川沿いでもいろいろと楽しいです。日本では、国土の70%の森を保留し、十数年間、私達には京都と奈良に住んだゆの塩焼を食べました。お米のたんぼや、菊、有意味な行事参加して、時、お米のたんぼや、菊、有意味な行事参加して、の畑や梅林など、沢山見よかったです。他の深刻です。ました。奈良の吉野山にな事は、家庭のごみを回も綺麗で森林、おいしい別のルールがあります。教室で勉強しました。森の分類する事、何週何曜日、中、杉の樹を一杯育てて出す事、牛乳パックを活用する事を学ばせていただきました。日本全国の、一級河川では、いろいろな、複雑な仕事です。一時間になりました。あつ、奥田さんの慈愛のこも工夫をして、河川の水質方、山科と吉野のごみ袋という間に日本をはなれた環境を守ります。奈良は買って使えます。ですが、沢山の事を勉強している様ですが、「ひらがに住んだ時、年に一回、ごみの為に、お金がかかっています。本当によかつな、カタカナ、漢字」満河川の特別な行事に参加かって(1ヶ50円くらたです。心から感謝し、載の見事な内容です。原しました。行事のテーマは、その袋を捨てます。す。私達は、また日本に文のまま掲載致します。原は「美しい吉野川を守る」これは不思議な事です。戻りたいです!

『日本文化体験ツアー』

見事な五月晴れの5月15日(日) 寺田駅前ロータリーでバスに乗る。車した一行は、まず一人ずつ自己紹介。初めて学習者に接した日本人参加者は、学習者の上手な日本語で自己紹介に感心されています。 20人(インドネシア10人、ベトナム9人、中国1人)、夢気球支援者8人、協会役員や高校生を含む一般の日本人参加者7人、協会会長、職員4人の39人です。 一時間ほどで最初の目的地「信楽陶苑たぬき村」へ到着。ここで、陶器の絵付けを体験しました。それぞれ茶碗と湯呑から一つを選び、思い思いのデザインで絵付けを楽しみました。学習者の中には日本語で好きな言葉を書く人や、反対に自国の文字で名前やメッセージを書いていく人もいました。 支援者以外の日本人参加者は、初司会のくノ一からの指名でインドネシア人のリダンさんがステージで吹き矢を体験。「命中どころか、たりするうちにすつかり打ち解

